

地域づくり表彰

おしゃれ田舎プロジェクト
(長野県小諸市)

人と人を繋ぐ起業者支援

おしゃれ田舎プロジェクト

メンバー（発起人）

高野 慎吾



1. 小諸市の概要

小諸市は、長野県の東部に位置し、活火山・浅間山の南麓に広がる高原の街であり、日照時間も長く「陽のあたる坂のまち」です。歴史的には、古くから交通の要衝の地にあり、城下町より低い位置に城郭がある全国的にも珍しい「穴城」で、日本 100 名城にも選出されている小諸城の城下町として、また、宿場町が形成されたことによる物資の交流が盛んな商業都市として栄えてきました。



小諸城大手門（国重要文化財）

明治時代に入ると、重要な商業の町「商都・小諸」として発展し、また一方では、文豪・島崎藤村をはじめとする多くの文化人が小諸に居住するなど、数多くの文人墨客が訪れたことから、「詩情豊かな高原の城下町」とも称されています。

小諸市の標高は、市の中央部を流れる清流千曲川沿いが約 600m、浅間連峰の一角をなす高峰高原が 2,000m と、標高差に富んでいます。

首都圏からは 200 km 圏内にあり、北陸新幹線佐久平駅又は軽井沢駅を経由することにより、首都圏からアクセスの良い状況にあります。

また、小諸市は、内陸性の冷涼な気候で、降水量が少なく日照時間が長いことから、高原野菜やワイン用ブドウ栽培の適地でもあります。ワイン用ブドウ栽培では、市内のワイナリーで醸造されたワインが国際ワインコンクールなどで、最優秀賞を

獲得するなど、良質なブドウが育っています。



高原に広がるワイン用ぶどう畑

2. 活動開始の背景・経緯

全国各地で、人口減少、少子高齢化などの課題を受け、賑わいを失いつつある「まち」が多くあります。

小諸市も例外ではなく、特に北陸新幹線の開通に伴い、それまで特急が停まり観光客等で賑わっていた小諸市の顔である小諸駅に特急が停まらなくなり、店舗の閉店も増加する等、新幹線の停車駅が他自治体でできた影響は、賑わいを失うきっかけとして大きな要因を占めています。

数年前より、移住をキーワードに首都圏に住む方々の目が地方に向き始めてから、各地方が独自性を強めることでより多くの移住者を取り込もうと施策を講じてきました。

移住者に「選ばれるまち」として欠かせないことは種々ある中で、その中でも「活気があるまち」は選ばれる大切な要素といえます。賑わいが減り、空き店舗や空き家が増えていた小諸市が選ばれるには、活気を取り戻す必要があると感じ、活気を取り戻すためには、小諸市に住む方々が「小諸を好きになる」、「楽しいと思えるまちになる」ことが最も効果的な手段であると考えました。

そこで、2019 年に発起人 2 人の呼び掛けにより「おしゃれ田舎プロジェクト」が立ち上がりました。

3. 「おしゃれ田舎プロジェクト」

「おしゃれ田舎プロジェクト」で

は、小諸市のまちなかが地域の人にとって楽しいと思えるまちなかにすることを目的に、地域の人たちが出かけたくなる店舗、特徴のある店舗を増やし、空き店舗解消に向けた支援を展開することとしました。おしゃれ田舎プロジェクトのメンバーは、「まちなかで商売をする商人たち」と「少数の行政マン」とで、「楽しみながら」をモットーに、プロジェクトの目的に想いを共にした仲間で構成しています。まちなかを盛り上げるためには、当事者意識が重要と考え、既にまちなかで事業を営んでいる方をはじめ、関わり合いの強い方など、地域のことは地域の人考えるスタイルの「地域コミュニティ」として位置付けています。そのため、代表者を設けることをせず、一人ひとりがプレイヤーであって、全員が同じベクトルで行動することを共通認識としています



OSHARE
INAKA
PROJECT
COMMITTED X KOMORO

プロジェクトのロゴ

田舎の「田」を道に例え、「舎」を意味した建物が田んぼ道に佇む。田舎なのに“お洒落”、お洒落なのに“田舎”を感じるようイメージ。

日々の日常に彩りをそえる暮らしをめざす想いが込められています。

4. 起業者支援

地域の人たちが出かけたくなる店舗誘致として、まず実施したことは、空き店舗情報の収集です。地域内の不動産業者を通じて得た情報に加え、市場には出ていない潜在的な情報を得るため、一軒一軒訪問し、家主と顔見知りになりつつ、情報を得ていきました。収集した空き店舗情報を持って、小諸市で出店していただける方を募集するため、東京を会場に

セミナー等を開催してきました。そのセミナー等の参加者が実際に小諸市内での出店に至ったり、今もなお、相談中の方もいらっしゃいます。



東京で開催したセミナー

小諸市のように「田舎」と呼べるまちで出店することは、首都圏で出店するメリットとは異なり、店舗同士のつながりや地域の人とのつながりが持ちやすいことが強み(メリット)と捉え、小諸市で出店を検討されている方に対し、呼びかけをしてきました。

5. 移住起業家へのサポート

「移住」は住む環境も大きく変わることから不安も大きく、ハードルが高いのが現状です。ましてや起業を考えているなら尚更です。その不安やハードルを少しでも解消するため、移住&起業を検討している方たちには、まずは、その目で、肌で小諸を感じていただくため、時間をつくって小諸にお越しいただき、小諸の街なかを案内させていただきます。その際に、小諸について良いことも悪いことも包み隠さず紹介させていただくとともに、既に起業している方、先輩移住者の方、元々商売をやられている方、今後絡んでいくと面白いことができそうな方などを可能な限り繋げることにしています。

そのことにより都会にはない「人の繋がり」を感じていただくことで、環境面だけでなく精神的な不安を取り除くことを心掛けています。

6. 「のきさき」プロジェクト

新規起業家の支援を行う中で、起業したいと思っている人がいきなり店を構えるのはハードルが高すぎる…という課題もあることから、既存店舗の皆さんや、先輩起業家の皆さんの協力を得る形で、実際に店舗を構えているお店の時間外や定休日を利用して、ちょっと軒先を借りる感

覚で店舗をお試しで貸してあげよう！という「のきさき」プロジェクトという取り組みを 2023 年の1月から始めました。小諸の街がどんな街なのか、雰囲気はどうか、客層はどんな人が多いのか、お試しで店舗を開いてみよう…というもので、既存店舗の有効活用や新規起業者と地域の人たちの繋がりが生まれ、そこから新規出店に向けた相談にも繋がっています。

7. 特徴のある店舗の増加

おしゃれ田舎プロジェクトが発足してすぐに日本国内は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、人との接触を避けざるを得ない、不自由な生活を余儀なくされました。そのコロナ禍において、プロジェクトを通じて新規オープンした店舗が 2023 年9月末現在で 15 店舗、プロジェクトで情報発信や店舗のリノベーション等、関わらせていただいた店舗が 5 店舗あります。コロナ禍で新規店舗オープンに対する不安は計り知れないものがあつたと思いますが、事業主の皆さんの熱い想いと行動により、関わらせていただいたどの店舗も特徴的で、事業主の想いが詰まった素敵な店舗となっています。



古木を活かしたこだわりの店舗

8. 地域との関わり

《マルシェの開催》

小諸の街なかに「まちタネ広場」と呼ばれるユニークな都市公園があります。この都市公園では、毎週のように様々な催し物が行われます。

主催者は、その都度違い、自分たちがやりたいことを企画から運営まで責任を持って行います。

この公園を利用して、プロジェクトを通じて繋がった皆さんと 2022 年から「ASAMAYA MARCHE」を開催しています。このマルシェでは、地元の事業主は元より、移住起業家や移住元である東京をはじめとした首都

圏で繋がっていた人たちも出店者として集まっています。参加者も小諸市民だけでなく多くの方にお越しいただいています。

このマルシェを通じて、新たな人と人の繋がりが生まれ、そこから事業連携、コラボ商品の開発や新たなイベントの開催など、新しい取り組みが生まれています。

《新規店舗のオープンによる変化》

街なかにおいて、空き店舗が装いを新たに新規店舗として生まれ変わることによって目に見える変化が起こります。「あの空き店舗がこんな素敵なお店に！」「歩いて行けるお店が何店舗も出来て嬉しい！」どれも市民の皆さんの声です。街なかに新規店舗が何店舗もオープンすることで、街なかでの活動が目目されるようになり、最近では市内の老舗店舗から依頼を受け、新規事業の支援を行うようになりました。少しずつプロジェクトも認知していただくようになり、地元の皆さんからもお声が掛かるようになってきました。



古民家のリノベイベント

9. 課題と展望

これまでの約4年間の活動から、徐々に不動産が動き始め、事業者と地域住民がそれぞれ繋がることで、地域の方から「楽しい」の声が生まれ始めています。そして、現在では小諸市内での出店希望者が急増する状態となり、まだまだ賑わいを生み出すことができていると感じています。

この状況に対応するため、空き店舗の掘り起こしが完了していないエリアの情報を収集し、さらに出店希望者とのマッチングの成功数を増やし、「地域の方が楽しめるまち」、「地域外の方が訪れたいと思うまち」を目指して活動を進めていきます。

まちづくりの主体は「人」です。おしゃれ田舎プロジェクトではこれからは「人と人をつなぐ地域づくり」を心掛け活動していきます。